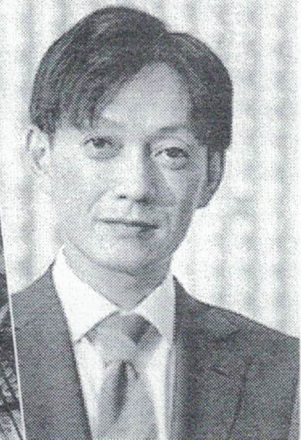
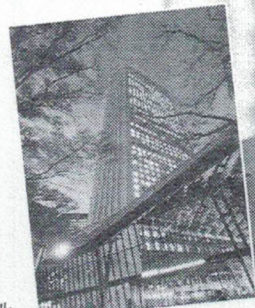


サラリーマンは乞食 役員"5時間罵倒"音声



「Casa」のホームページ



本社が入る新宿のビル

「お前みたいなクソは地獄に落とさる。死ぬまで償えホケケ」
「サラリーマンごときが、俺を怒らしたら怖えぞ」
ドスの利いた低い声、時おり巻き舌で大声を張り上げる。この声の主、売上高約百億円、東証一部上場の代表取締役社長だという。

この発言をしたのは「Casa」社長の宮地正剛氏(48)。二〇一三年設立の同社は、個人が賃貸住宅を借りる際、連帯保証人の代わりに家賃保証を行うサービスを提供する企業で、従業員は約三百人を数える。
「宮地氏は香川県出身で国立館大学を卒業。〇四年、

「Casa」の宮地社長(会社HPより)

前身の会社「リプラス」に中途採用された。同社が〇八年に倒産後、投資会社と後継会社を設立。自ら手を上げ社長に就任し、一〇年に「Casa」に商号を変更すると、一七年に東証一部に上場しました。今年八月時点で同社株を一八・二一%、約二百三十四万株保有し、約三十億円の資産価値になる(元社員)

宮地氏は会社HPで経営理念をこう語っている。
「社長として「Casa」にいる間は、私が親として責任をもつ」という覚悟と愛情をもって接したいのです」ところが、「社長が社員に暴言を吐くのは日常茶飯事でした」と語るのには、冒頭の罵声を浴びたA氏である。営業部門のトップとして取締役を務めていた五十代のA氏は、約七年間にわたり、宮地氏に苛烈な叱責を受け続けていたという。
元役員が証言する。
「細かい資料作りなど、部下に任せてもいい仕事までAさんがやらされていました。営業成績が伸びないと『家の権利書を持っていい』

『背広の中に辞任届を入れて歩け』と言われていた」
前出の元社員が宮地氏の社長ぶりについて語る。
「毎日のように理不尽に怒鳴り散らしていた。ノルマが達成できない社員に『給料泥棒!』『金返せ!』と」

さらに別の元社員はこんなエピソードを明かす。
「ボーナスをもらった翌日はお礼を言うため、社長室前に二百人ほどの社員が並びます。一度、部下が行かなかったことで呼び出され、『お前の教育がなっていない!』と叱られました」

小誌は複数の元社員から、宮地氏がA氏を含む社員を叱責する様子が録音された計五時間以上の音声データを入手。一八年九月五日の会議では、ある地方の支店長が責められていた。
「街金崩れが。(家賃を)滞納してる連中の集金しか能のないやつらが生きていけないのか。ああ? ゴミ拾いしかできんのだろうか」

だが何故、A氏はターゲットにされていたのか。
「宮地さんはハッキリものを言う部下には強く言えない。Aさんの温和な人柄と、言い返さない態度に増長していったのです(同前)」
耐えかねたA氏は今年六月二十二日、退職届を提出した。A氏が振り返る。
「社長からのパワハラによる脱力感、無力感に襲われ、退職を願いました。すると『辞めるなら』金で解決するしかないやろ、三千万や」と言われ、私が保有する七千万円の株も置いていくという話に。兄に相談し、弁護士にも相談するため、その後のやり取りを録音することにしました」

一週間後の六月二十九日、A氏が「社長室に集合です」と声がかかる。六人ほどの役員が無言で集まる中、喫煙から戻った宮地氏がこう口火を切った。
「お兄ちゃんに相談して弁護士と相談する。意味が分からんから」

A氏は「弁護士に相談をして、どう対応するかというのを考えたい」と返答。すると宮地氏は「居直つてろが!」と怒鳴った。
その瞬間、A氏は「どこがだよ!」と宮地氏の元へ

「お兄ちゃんに相談して弁護士と相談する。意味が分からんから」
A氏は「弁護士に相談をして、どう対応するかというのを考えたい」と返答。すると宮地氏は「居直つてろが!」と怒鳴った。
その瞬間、A氏は「どこがだよ!」と宮地氏の元へ

「電車に飛び込め」「サラリーマン」 東証一部上場社長の役員

罵倒された元役員のア氏

駆け寄り、胸倉をつかんだ。その場にいた役員が語る。「すごい勢いで詰め寄ったので、みんな『やめてください』と止めました」。そこから、冒頭のような宮地氏の罵倒が始まった。「来いよ、腕っぶし俺、自信があるから。来い来い！俺も輩は輩で何人も付き合ってるから」。「ドス抜いた役員もおったけど俺を刺そうとはせんかったわ。やっちゃったのお」。「サラリーマンは金をベツト（賭ける）できんのじや、乞食やから」。

A氏は「すみません」と謝り続け、「警察に行きます」と告げる。しかし宮地氏に止められ、叱責が続く。「俺は頭おかしいんだ。だから危ねえんだよ。耐えれなかったら電車に飛び込め」「死ぬほど苦しめ」。「お前は奈落の底に突き落として、お前の家族も突き落として」。

四時間以上に及ぶ罵倒は、宮地氏の「OK、以上じゃ」と退席する声で終わった。翌六月三十日の朝、A氏が会社に行く、部下から「午前中で（終わらせて）、ということですよ」と告げられる。A氏は自己都合退職の形で会社を去った。そして三カ月後の十月下旬、A氏のもとに警察から電話が入った。宮地氏が新宿警察署に暴行罪で被害届を提出したのだ。A氏は署で事情聴取を受け、十月三十日に書類送検された。現

「問題がないと思います」

さらに質問をするも、「お話しすることはしないですね。申し訳ないですけど」と電話が切れた。十一月三十日、Casa宛てに質問書を送ると、同社で取材に応じると連絡が入った。宮地氏は同席せず、執行役員や監査役、課長ら五名が対応した。宮地氏がA氏に一連の発言をした事実は認めた上で、「我々はコンプライアンス上、問題がないと思っています」と執行役員が回答。A氏については口々に「子会社の取締役として業績不振で、売り上げも把握していなかった」「職務怠慢が在は起訴となるか検察の判断を待っている状況だ。事実関係を確認するため、宮地氏を電話で直撃した。A氏に対してパワハラをされていたか？」「多分、そういうことないと思いますよ」。

（暴行の）被害届を出したのは三カ月後ですが。「私の配慮だと思います」

「懲戒解雇にしなかつたのは「社長の恩情だった」と答えた。さらに執行役員は「社長の言葉が乱暴であることは否定しませんが」とした上で、「言葉が乱暴というのは逆に信頼してもらっているのかな」と。監査役は「『街金くずれ』と言われたけど、乗り越えたよね。みんな何か崩れているんですよ、人生。でもここで再生されている」と宮地氏への感謝の言葉を発するのだった。

OMM法律事務所の大家和成弁護士はこう指摘する。「A氏が書類送検されたというのを鑑みても、『地獄に落としたり』『死ぬほど苦しめ』は刑法の『脅迫罪の害悪の告知』にあたると思われまます。法的措置を望めば、パワハラにより損害賠償請求も可能だと思われまます。また、『輩と付き合ってる』は反社会的勢力との交際をほめかすものであり、上場企業の代表取締役としてコンプライアンス上問題であり、適格性の問題になり得ると思います」

また、日本マネジメント総合研究所の戸村智憲理事長はこう解説する。「一般論として上場した企業は、法令遵守と社会に資する経営をする必要があります。社長は株主のお金や労働力を預かって善良に運用する立場なので、ハラスメントが起きるのは言語道断。怖いのは、上司が部下を怒鳴りつけても、『思いやりでの厳しさだ』と部下を洗脳して受け入れさせている状況です」

宮地氏が名付けた「Casa」という社名はラテン語で「みんなの家」という意味だが、一人の家になつていてのではないか。

昭和34年4月21日第三種郵便物認可 令和2年12月10日発行(木曜日発行)(12月3日発売)第62巻第47号

週刊文春

12月10日号 定価 440円



週刊文春 十二月十日号

昭和三十四年四月二十一日第三種郵便物認可
発行所：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 株式会社文藝春秋

第六十巻 第四十七号

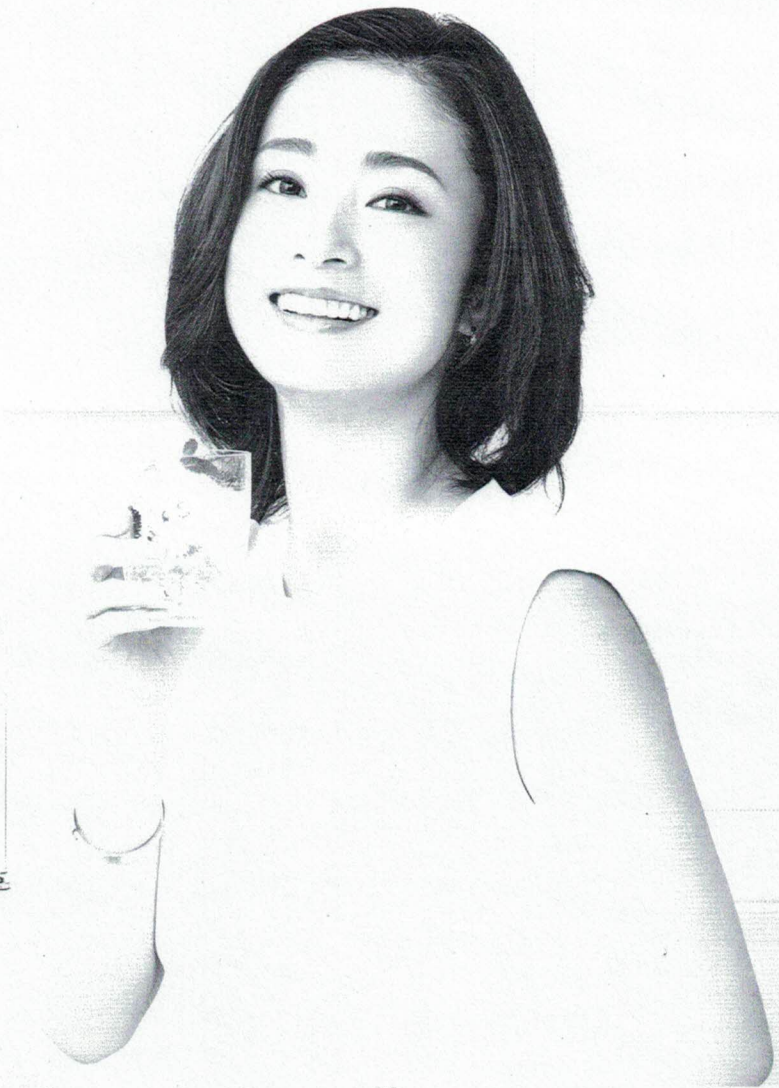
編集人 加藤晃彦

東京都千代田区紀尾井町三十一-三

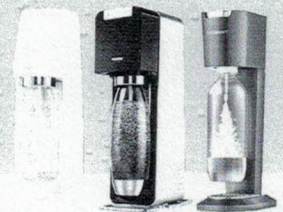
株式会社文藝春秋 大代表 03-3265-1211

定価 440円

本体 400円



- 💧 カンタン操作で自分好みの強さに!
- 💧 500ml約18円でリーズナブル!
- 💧 正しい姿勢でいつもシュワシュワ!
- 💧 専用ボトルでゴミもゼロ!



全国の百貨店・専門店・家電量販店・大型スーパーなどでお買い求め頂けます。詳しくはHPのお取り扱い店舗をご覧ください。
SodaStream コールセンター 0120-286-230

www.sodastream.jp ソーダストリーム 検索

雑誌 20402-12-10



4910204021205
00400

Printed in Japan
凸版印刷株式会社印刷